

管理部・ヘッダ部の運用整理表

Table with columns: 通番, 資料(情報)名, 運用種別情報, 情報名称, 情報種別, Date/Time, Status, Editorial/Office, Publishing/Office, Head/ReportDate/TargetDate, TargetDuration, ValidDate/EventID, Info/Type, Serial, Code, 備考. Contains rows for various weather reports like '特殊気象報', '一般気象情報', '津波情報', etc.

EditorialOffice/PublishingOffice
気象庁本庁、及び東京管区気象台が発表する情報に関して、本XML電文ではEditorialOfficeを常に「気象庁本庁」とする。PublishingOfficeについては、表中の括弧書きに従う。
「観測担当官署」については、ControlTitleが「生物季節観測」以外のものは、各管区気象台、沖縄気象台、各地方気象台、候測所(航空官署を除く。)となる。「生物季節観測」は、このうちの一部の官署となる。
「府県予報担当官署」については、気象庁予報警報規程における府県予報区を担当する気象官署を示し、「分担官署」については、同分担気象官署を示す。
「地方予報担当官署」については、気象庁予報警報規程における地方予報区を担当する気象官署を示す。
「気象庁・河川事務所共同発表」：気象庁・自治体共同発表、気象庁・自治体共同発表する各気象官署名と各機関名の併記となる。
「火山担当官署」について、EditorialOfficeは、「気象庁本庁」、「札幌管区気象台」、「仙台管区気象台」、又は「福岡管区気象台」となり、PublishingOfficeは「気象庁地震火山部」、「札幌管区気象台」、「仙台管区気象台」、又は「福岡管区気象台」のほかに、対象地域に応じて「大阪管区気象台」、「沖縄気象台」、「鹿児島地方気象台」との連名、併記となる。
「海上予報中核官署」について、EditorialOfficeは、気象庁本庁、札幌・仙台・福岡管区気象台、沖縄気象台、函館・新潟・名古屋・神戸・長崎・鹿児島地方気象台、大阪管区気象台(舞鶴)となり、PublishingOfficeは、気象庁本庁、札幌・仙台・大阪・福岡管区気象台、沖縄気象台、新潟・名古屋・高松・鹿児島地方気象台となる。
「地方予報中核官署」については、管内・総走・釧路地方気象台となる。
ReportDate/TargetDate/ValidDate
記載は、その時刻が業務的に持つ意味と、時刻の示す業務上の単位(精度)を示す。「-」表記は当該要素を利用しないことを示す。印の意味は以下の通り。
1 数分の誤差がある
2 5分単位に丸める
3 予報(発表)日時と同じ
EventID
現象、予報等の独立した情報単位として、他の情報と組み合わせる場合にどのような値を含むのかを示す。「-」表記は独立した情報単位を示す際に当該要素を利用しないことを示す。印の意味は以下の通り。
1 14桁数字表記する。なお、同一地震でも、緊急地震速報・震度速報(以上、自動処理による発表)と、津波警報・注意報・予報・津波情報・地震情報(以上、手動による発表)の間でEventIDが一致しないこともある。
2 複数指針2.1.3.1の記載にかかわらず、地震・津波に関連する情報においては、Control/Title、Control/Status、及び地震識別番号の組み合わせが一致する一連の情報を「独立した情報単位」として扱う。「地震・津波に関連する情報においては、同一の地震であっても編集官署が切り替わる場合がある。また、津波に関連する情報では、複数の地震識別番号を持つ場合がある。」
3 複数の現象(地震)による場合は、要因となる地震識別番号 1をx1st型で列挙する。
4 T1番号とは、海上風警報以上(WARNING、最大風速が28ノット以上34ノット未満)対象の熱帯低気圧に年間通番でつける番号。台風は34ノット以上。
5 4 y1y1y1M1M1d1d1h1h1m1m1 - 一連の情報を示すイベント番号(第1号の発表日時(JST)) y2y2y2M2M2d2d2h2h2m2m2 - 当該情報を示す番号(当該情報の発表日時(JST)) (yyyy-西暦年 MM月 dd日 hh時 mm分)
6 「発表対象地域」は、当該土砂災害警報情報の発表単位で、北海道と沖縄県以外は都道府県名と名称となる。北海道は「宗谷地方」、「上川地方」、「留萌地方」、「狩野川地方」、「後志地方」、「渡島・檜山地方」、北海道以外には、沖縄県は「沖縄本島地方」、「宮古島地方」、「八重山地方」に分割して発表するため、この名称となる。
7 Body/MeteorologicalInfos部の@typeが「特殊気象報(風)」、「特殊気象報(気圧)」の場合、「発表日時分+観測項目+現象を観測した気象官署の国際地点番号」とする。
Serial
「空タグ」：台風に関して必要時に発表する全般台風情報のうち、台風が発生したときに必ず発信する「発生情報」において、通番を用いた「空タグ」とする。
「n(1-)」：台風に関して必要時に発表する全般台風情報(総合情報、上陸等情報)、全般台風情報(位置)、全般台風情報(位置詳細)については、通番を1から付与する。これら以外の「位置情報」、「総合情報」、「上陸等情報」について一連の情報としており、一連の通番は原則これらの情報の発表順に付与する。
「x(1-)y(1-)」：台風になる前の熱帯低気圧に関して必要時に発信する「発達する熱帯低気圧に関する情報」では、熱帯低気圧に対し年間を通した番号をxに1から付与し、同じ熱帯低気圧に対しては固定する。同一の熱帯低気圧に対する一連の情報番号を、yに1から付与する。x、yともに2桁の固定長とし、x,yの間に「-」(半角ハイフン)で結び(正規表現は「^x\d+-y\d+\$」)。xは年が変わると1から始める。
Code値の出現する要素
Head部における各種コード値を格納できる要素(「Code」要素)において、コード値が出現する際の親要素名を資料(情報)名別に表記する。